二三の龜鼈類に於ける染色體*

中 村 健 兒

京都帝國大學理學部動物學教室

Clemmys mutica, *Geoemyda spengleri*, *Cyclemys flavomarginata* 及び *Caretta olivacea* の染色體に就て報告する。之等の龜の中、*Caretta* を除いては、成熟せる睪丸に於ける精原細胞の分裂及び成熟分裂の際の染色體を研究したもので、いづれも $2n=52$, $n=26$ であつて染色體の状態は以前に發表した *Clemmys japonica* に於けると全く同様である (1935)。之等の他に陸龜科では *Sternotherus* (RISLEY, 1936) 及び *Emys* (MATTHEY, 1931) の雄に於て $2n=50$ と報告されて居るが、之等の龜を比較すると其の染色體の状態は甚よく似て居つて、最も著しい點はいづれも四個の大きな V 型及び二個の大きな棒狀染色體を有する事である。

Caretta に於ては胎兒及び孵化直後の物の生殖巣に於ける染色體を研究し、精原細胞に於て 58 個の、又卵原細胞に於て 57 個の染色體を見出した。斯様に雌に於て奇數の又雄に於て偶數の染色體を有する事實は小熊氏が *Lacerta* (1934) 及び *Amyda* (1937) に見出した状態に一致する。*Caretta* の染色體中にも他の龜に於けると同様に四個の大きな V 型及び二個の長い棒狀染色體を判然と認める事が出来る。而して海龜科は系統上、陸龜科と近縁であるから此の染色體の形態に於ける一致は偶然の類似ではないと考へられる。

又 *Amyda* の染色體中には大きな二個の V 型及び二個の T 型の染色體が見られるが、之は龜類の四個の V 型染色體に相當するものであらう。

本研究に對し服部報公會より援助を與へられた、茲に謹んで謝意を表する。

引 用 文 献

- MATTHEY, R. 1931. Chromosomes de reptiles. Rev. Suisse de Zool., **38**.
NAKAMURA, K. 1935. Studies on reptilian chromosomes VII. Chromosomes of a turtle, *Clemmys japonica* (Temm. & Schl.). Mem. Col. Sci., Kyoto Imp. Univ., Ser. B, **10**.
OGUMA, K. 1934. Studies on sauropsid chromosomes. II. The cytological evidence proving female heterogamety in the lizard (*Lacerta vivipara*). Arch. Biol., **45**.
1937. Studies on sauropsid chromosomes. III. The chromosomes of the soft-shelled turtle, *Amyda japonica* (Temminck & Schleg.), as additional proof of female heterogamety in the Reptilia. Journ. Genet., **34**.
RISLEY, P. L. 1936. The chromosomes of the male musk turtle, *Sternotherus odoratus* L. Cytologia, **7**.

質問 (島倉亨次郎) 「rod とは telomtic のものか」。

答 「その點は未だ判りえないが、棒狀染色體の中には端に極めて近くくびれが出る場合と出ない場合がある、そのどれをも rod と云つた」。

質問 (牧野佐二郎) 「雌に 1 本缺けて居るのはどれか」。

答 「染色體を排列して見て居ないので、それを未だ決定して居ない」。

* Nakamura, K., On Chromosomes of Some Chelonians (A Preliminary Note).